

スーパーマーケット景気動向調査

2020年1月調査結果（12月実績）
（2020年1月21日公表）

スーパーマーケット中核店舗を対象として経営動向や景気判断を調査し、月次でスーパーマーケット経営を取り巻く内外の環境変化を定量的に明らかにすることを目的としています。またスーパーマーケット販売統計調査における売上変動の要因やカテゴリー別好不調要因を補足する役割を果たすことも期待しています。

【経営動向調査】

1. 経営状況：「売上」「収益」「生鮮品仕入原価」「食品仕入原価」「販売価格」「客単価」「来客数」スーパーマーケット中核店舗における各経営状況について

- ・前年同月と比較し「かなり増加」から「かなり減少」までの5段階で評価
- ・前年同月を100とした当月の値を調査 ※2014年4月実績より

2. カテゴリー動向：「青果」「水産」「畜産」「惣菜」「日配」「一般食品」「非食品」スーパーマーケット中核店舗における各カテゴリーに販売動向について、

- ・前年同月と比較し「かなり好調」から「かなり不調」までの5段階で評価
- ・各カテゴリーの好不調要因についてのコメント

経営動向調査DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+0.5・やや改善+0.25・変わらない±0・やや悪化-0.25・かなり悪化-0.5

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「0」

【景況感調査】

1. 景況感：「景気状況」「消費者購買意欲」「店舗周辺の競合状況」「店舗周辺地域の景気」について、

- ・2～3ヵ月前と比較した現状について「かなり改善」から「かなり悪化」まで5段階で評価
- ・今後2～3ヵ月の見通しについて「かなり改善」から「かなり悪化」までの5段階で評価

景況感DI (Diffusion Index) の算出方法

回答構成比 (%) に以下の点数を乗じてDIを算出

かなり改善+1.0・やや改善+0.75・変わらない+0.5・やや悪化+0.25・かなり悪化+0

※すべて企業が「変わらない」と回答した場合、DIは「50」

一般社団法人 全国スーパーマーケット協会
一般社団法人 日本スーパーマーケット協会
オール日本スーパーマーケット協会

1月調査（12月実績）結果概況

景気判断DI 現状判断は2か月連続の改善も、見通し判断は小幅に悪化

12月のスーパーマーケット中核店舗における景気判断DI 現状判断は、前月から+1.0の44.6、見通し判断は前月から-0.5の41.3と現状は2か月連続で改善するも、見通し判断は小幅に悪化をみせた。

経営動向調査では、収益DIがマイナス幅を縮小したものの、売上高DIは前月水準の-6.1となった。来客数DIが小幅に上昇したものの、客単価DIが下落したことが影響している。食品仕入原価DI、生鮮品仕入原価共にプラス圏で推移しており、販売価格DIは1.3と小幅にプラスとなった。

カテゴリ動向調査では、前年の青果相場安から回復した青果DIが-0.3まで上昇し、惣菜DIも1.9とプラス圏を維持した。酒類が不振の一般食品は-11.2と低迷している。（カテゴリ動向については最終ページに詳細を掲載）

景況感調査は現状判断で改善傾向がみられており、3ヵ月移動平均は上向きに推移している。一方で見通し判断には慎重な見方が続いており、現状と見通しの乖離幅が拡大している。（長期傾向についてはp11参照）

12月は暖冬の影響を受け冬物商材を中心に伸び悩んだ。祝日の減少やクリスマスが平日となるなどマイナス要素が多かった月だが、年末商戦が高額商品を中心に比較的好調であったことが支えとなった。年々ハレの日の曜日巡りが需要に与える影響が大きくなっており、少人数用やメリハリ消費が顕著になっている。消費低迷の長期化が懸念されるなか、多様化する食品ニーズへの対応力が求められる。

景況感調査

現状判断

景気判断DI 当月： 44.6 (+1.0) 前月：43.6	消費者購買意欲DI 当月： 44.2 (+1.8) 前月：42.4	周辺地域 競合状況DI 当月： 40.6 (+1.1) 前月：39.5	店舗周辺地域 景気判断DI 当月： 44.0 (+1.6) 前月：42.4
--	---	---	---

見通し判断

景気判断DI 当月： 41.3 (-0.5) 前月：41.8	消費者購買意欲DI 当月： 40.6 (-0.6) 前月：41.2	周辺地域 競合状況DI 当月： 40.2 (+0.8) 前月：39.4	店舗周辺地域 景気判断DI 当月： 43.2 (+0.6) 前月：42.6
--	---	---	---

経営動向調査 経営状況

売上高DI 当月： -6.1 (-0.5) 前月： -5.6	客単価DI 当月： -2.1 (-3.5) 前月：1.4	来客数DI 当月： -7.6 (+3.2) 前月： -10.8	
収益DI 当月： -2.5 (+3.6) 前月： -6.1	販売価格DI 当月： 1.3 (-0.4) 前月：1.7	生鮮品仕入原価DI 当月： 4.3 (+0.4) 前月：3.9	食品仕入原価DI 当月： 2.8 (-0.7) 前月：3.5

カテゴリ動向

青果DI 当月： -0.3 (+6.4) 前月： -6.7	水産DI 当月： -2.4 (-6.0) 前月：3.6	畜産DI 当月： -3.0 (-3.1) 前月：0.1	
惣菜DI 当月： 1.9 (-2.6) 前月：4.5	日配DI 当月： -3.5 (-2.8) 前月： -0.7	一般食品DI 当月： -11.2 (-2.0) 前月： -9.2	非食品DI 当月： -11.1 (+2.8) 前月： -13.9

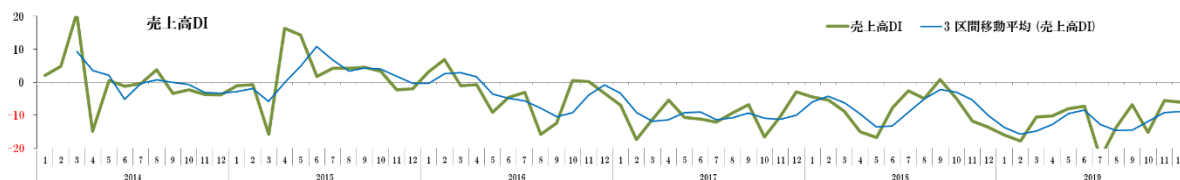
※DI 値は前年同月との比較 / () 内は前月 DI からの変化

結果詳細 I. 経営動向調査 (2014年1月～)

1. 売上高DI

マイナス圏での横ばい推移

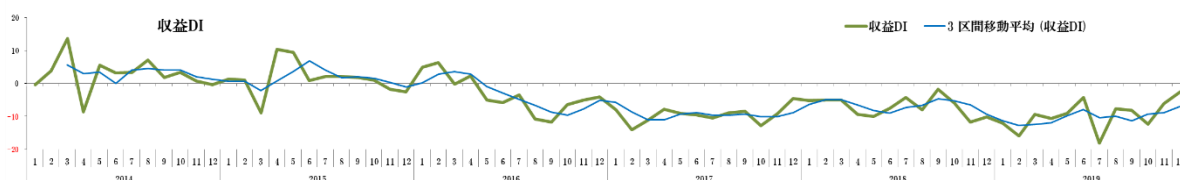
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
売上高 (前月)	10.3	34.3	25.7	26.9	2.9	-5.6
売上高 (当月)	9.0	32.9	34.8	20.0	3.2	-6.1



2. 収益DI

やや上昇基調もマイナス圏での推移

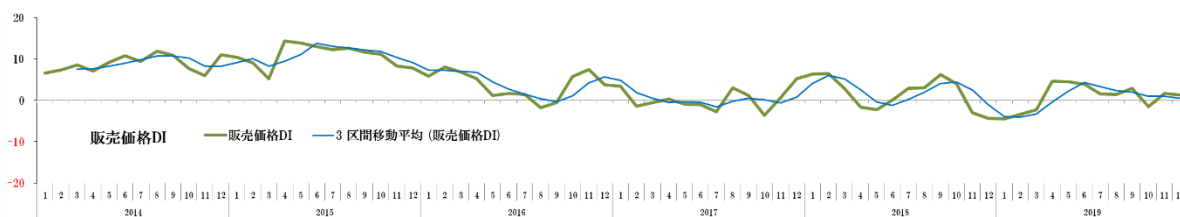
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
収益 (前月)	7.0	35.5	36.6	16.9	4.1	-6.1
収益 (当月)	5.3	29.8	37.7	23.8	3.3	-2.5



3. 販売価格DI

わずかなプラス圏で横ばい推移

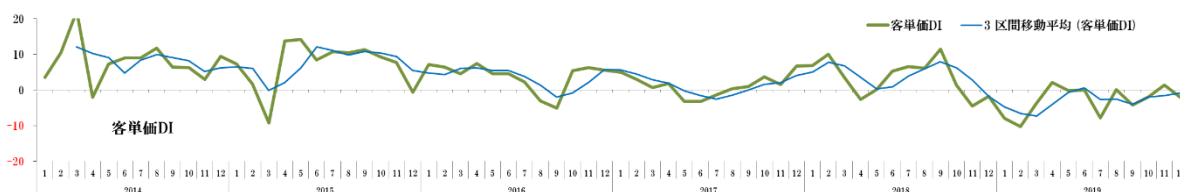
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
販売価格 (前月)	0.6	13.1	66.3	18.9	1.1	1.7
販売価格 (当月)	1.3	12.9	65.8	19.4	0.6	1.3



4. 客単価DI

小幅に下落し再びマイナス圏に

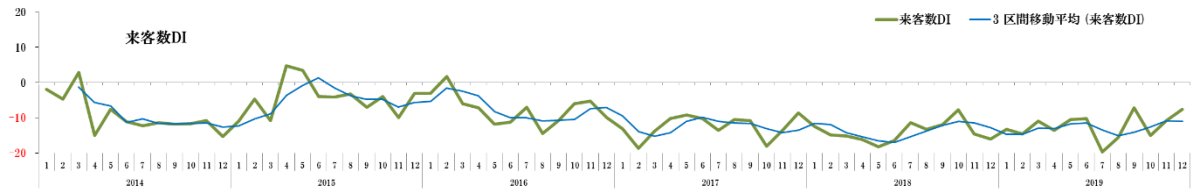
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
客単価 (前月)	2.3	22.9	43.4	29.7	1.7	1.4
客単価 (当月)	1.9	29.0	44.5	24.5	0.0	-2.1



5. 来客数 DI

マイナス幅をやや縮小も低迷が続く

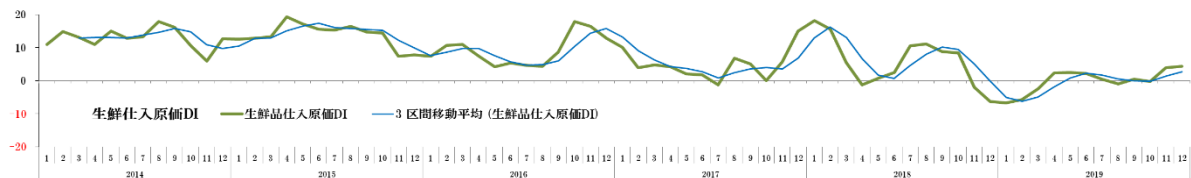
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
来客数 (前月)	11.5	38.5	33.3	14.9	1.7	-10.8
来客数 (当月)	8.4	39.4	29.7	19.4	3.2	-7.6



6. 生鮮仕入原価 DI

5か月連続でプラス圏を維持

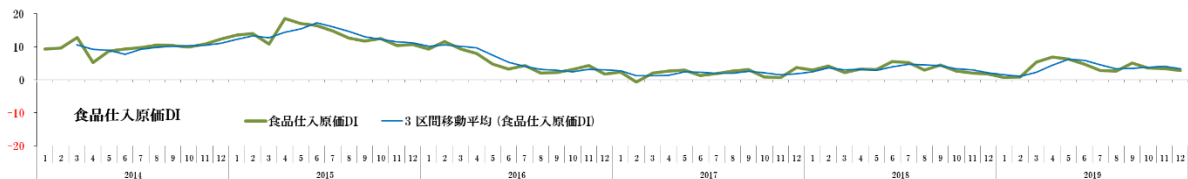
回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
生鮮仕入原価 (前月)	0.6	15.5	54.8	26.2	3.0	3.9
生鮮仕入原価 (当月)	1.3	12.0	54.7	32.0	0.0	4.3



7. 食品仕入原価 DI

プラス圏で底堅い推移が続く

回答構成比 (%)	かなり減少	やや減少	変わらない	やや増加	かなり増加	DI
食品仕入原価 (前月)	2.9	9.9	58.7	27.3	1.2	3.5
食品仕入原価 (当月)	2.6	9.9	61.6	25.2	0.7	2.8

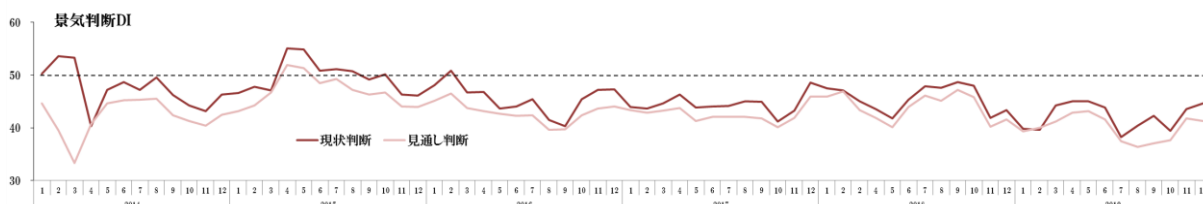


II. 景況感調査 (2014年4月～/周辺地域景況判断 2010年4月～)

1. 中核店舗景況判断 DI

現状判断は改善傾向も、見通し判断はわずかに悪化

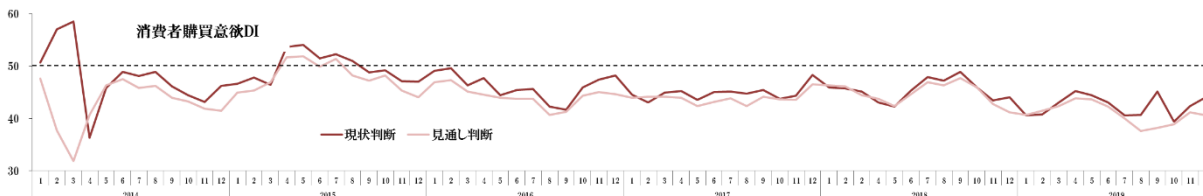
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】景況判断 (前月)	3.4	33.5	49.4	12.5	1.1	43.6
【現状】景況判断 (当月)	3.9	26.6	57.1	11.7	0.6	44.6
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】景況判断 (前月)	3.4	36.4	50.0	10.2	0.0	41.8
【見通し】景況判断 (当月)	3.2	33.5	58.1	5.2	0.0	41.3



2. 消費者購買意欲 DI

現状判断は改善傾向も、見通し判断はわずかに悪化

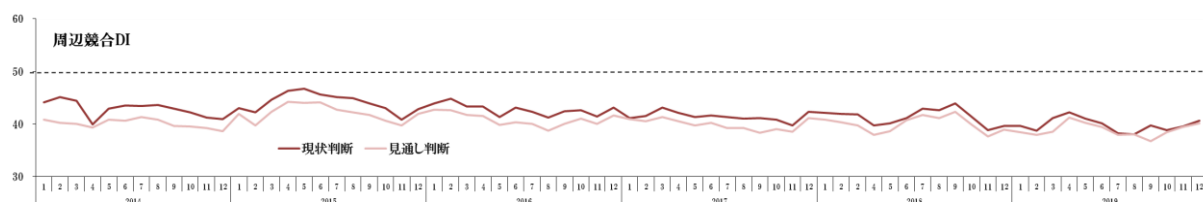
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】購買意欲 (前月)	2.8	29.9	63.3	2.8	1.1	42.4
【現状】購買意欲 (当月)	1.9	29.0	60.0	8.4	0.6	44.2
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】購買意欲 (前月)	2.8	32.8	61.0	3.4	0.0	41.2
【見通し】購買意欲 (当月)	2.6	34.8	60.0	2.6	0.0	40.6



3. 中核店舗周辺競合状況 DI

現状、見通しともにわずかに改善

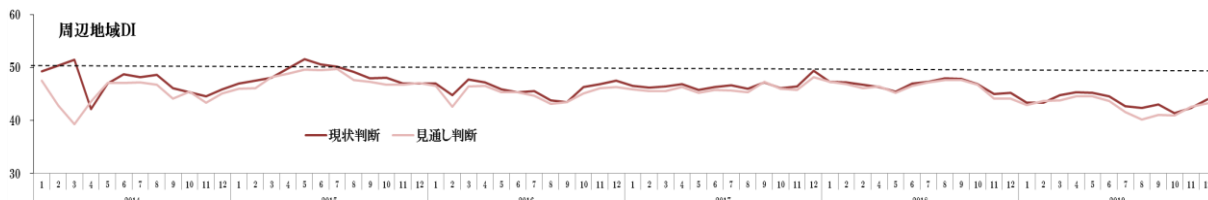
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】競合状況 (前月)	6.8	30.5	60.5	2.3	0.0	39.5
【現状】競合状況 (当月)	5.8	27.7	64.5	1.9	0.0	40.6
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】競合状況 (前月)	6.2	32.2	59.3	2.3	0.0	39.4
【見通し】競合状況 (当月)	7.1	27.1	63.9	1.9	0.0	40.2



4. 中核店舗周辺地域景気判断DI

現状、見通しともに改善傾向

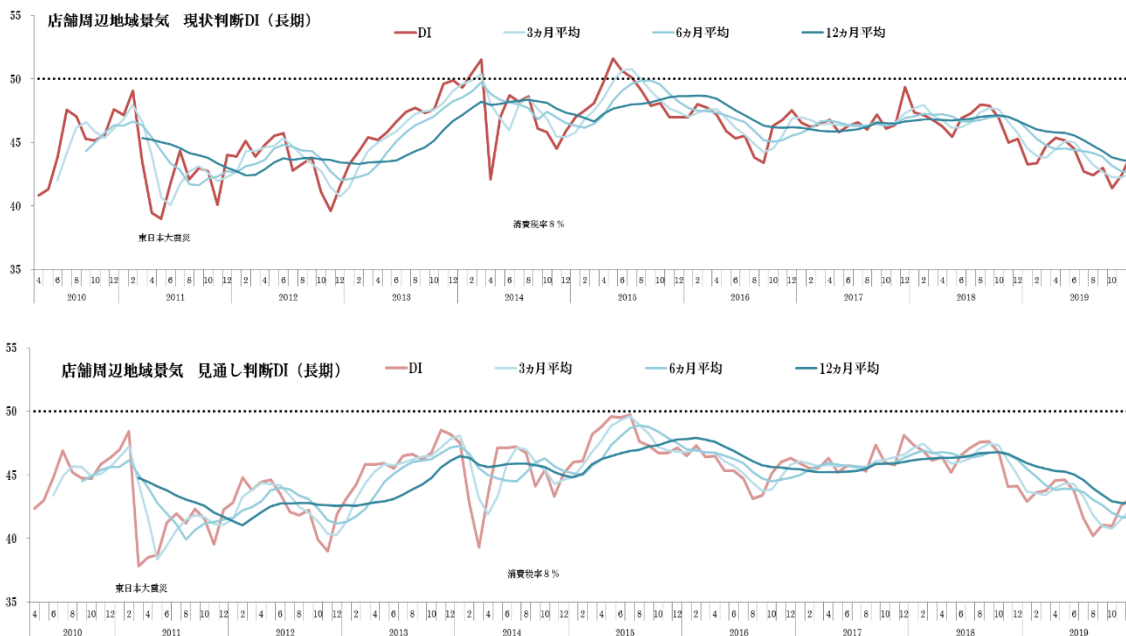
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【現状】地域景気(前月)	3.4	24.9	70.6	1.1	0.0	42.4
【現状】地域景気(当月)	0.6	23.4	75.3	0.6	0.0	44.0
回答構成比 (%)	かなり悪化	やや悪化	変わらない	やや改善	かなり改善	DI
【見通し】地域景気(前月)	2.3	26.9	69.1	1.7	0.0	42.6
【見通し】地域景気(当月)	0.6	27.3	70.8	1.3	0.0	43.2



・中核店舗周辺地域景気判断DI 長期傾向(2010年4月～)

周辺地域景気判断DIは、2011年3月の東日本大震災以降低迷を続けていたが、12年11月から16ヵ月にわたる改善が続き、14年3月には現状判断DIが51.5を記録した。14年4月の消費税率8%への引き上げにより、大幅に悪化したものの、その後徐々に持ち直しをみせ、2015年5月には現状判断DIは51.6にまで達し、調査開始以来の最高値を更新した。

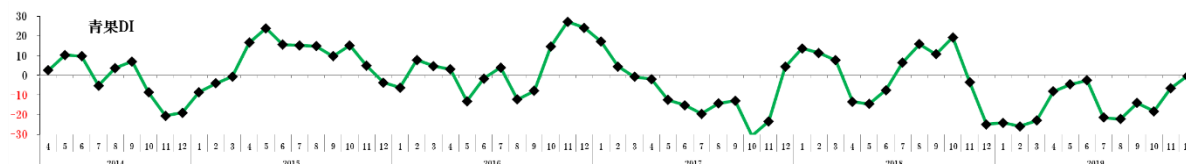
しかしこれをピークに、その後15ヵ月間にわたり悪化傾向が続き16年9月には、現状判断DIは43.4まで低迷した。以後方向感の乏しい推移が続いていたが、18年の後半から悪化傾向が顕著となり、徐々にその水準を切り下げ、19年10月には現状判断DIは40.9まで低下した。その後2ヵ月連続で改善している。



Ⅲ.カテゴリー別動向

1. 青果DI：-0.3（やや不調）

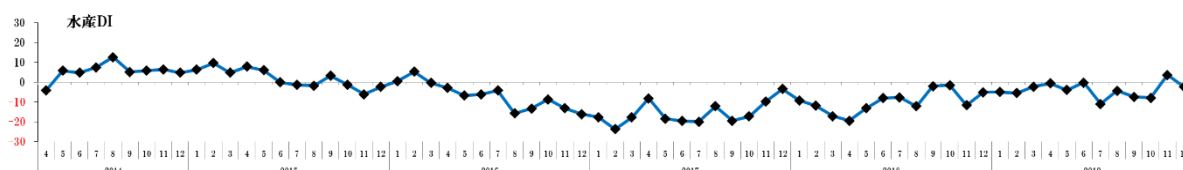
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
青果（前月）	13.6	29.0	32.5	20.1	4.7	-6.7
青果（当月）	6.8	26.5	31.3	32.0	3.4	-0.3



前年より高めに推移した気温により、サラダ商材の動きがよく、トマトやレタスなどが好調となった。鍋物食材の動きは良くなかったが、前年相場安で大きく落ち込んだ葉物類を中心に相場の回復により持ち直した。国産果物類は柑橘類、特にみかんを不調にあげるコメントが多くみられ、イチゴは高値で推移しており好不調が分かれている。一方でブドウやリンゴは好調となった店舗が多かった。

2. 水産DI：-2.4（やや不調）

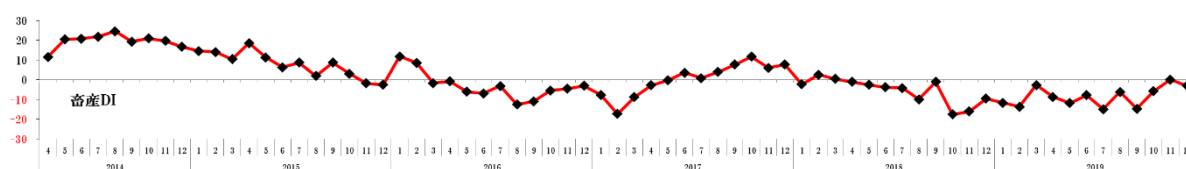
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
水産（前月）	7.7	19.5	32.0	32.5	8.3	3.6
水産（当月）	6.9	28.5	36.1	24.3	4.2	-2.4



前年より高い気温により鍋物用食材（牡蠣、カニ、タラなど）の動きが鈍かったものの、寒くなるにつれ回復した地域もみられた。年末商戦での刺身類は高額商品を中心に伸び悩んだ店舗が多い。ブリは売り込みを強化した店舗が多く、年末を中心に好調となった。おせち関連商材は前年をやや上回った店舗が多い。

3. 畜産DI：-3.0（やや不調）

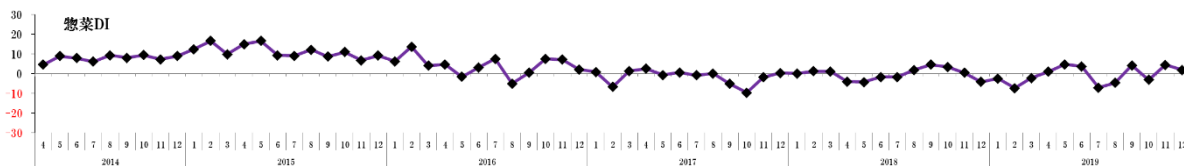
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
畜産（前月）	7.1	26.8	32.1	26.2	7.7	0.1
畜産（当月）	6.9	25.7	41.0	25.0	1.4	-3.0



前年より気温が高く総じて鍋物用を中心に動きが悪かった。年末商戦は、すき焼き用など和牛の動きがよかった。国産豚肉相場が上昇しており、代わって輸入豚が好調となった。クリスマスが平日となった影響を受け鶏肉は不調となった。ハムなどのギフトは振るわなかったとのコメントが多い。

4. 惣菜DI：1.9（やや好調）

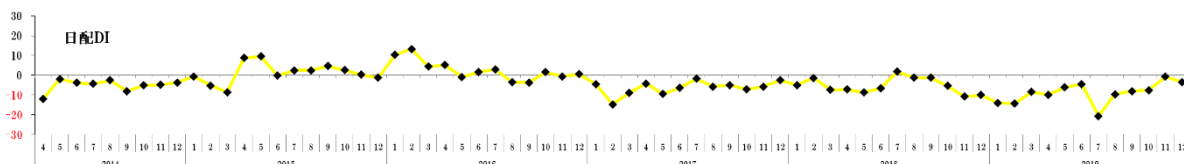
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
惣菜（前月）	8.4	16.8	35.3	27.5	12.0	4.5
惣菜（当月）	5.6	21.5	38.2	29.2	5.6	1.9



クリスマスが平日となり、オードブルやパーティー向け惣菜の動きが鈍かった一方で、少人数用向けの動きがよかった。ローストチキンについては販促を強化している店舗が多く、成果をあげている。年末は高額寿司類やオードブルが好調でチャンスロスが発生した店舗もみられた。おせちは予約販売を中心に好調となった店舗が多い。月を通じてサラダ関連の動きがよかった。

5. 日配DI：-3.5（やや不調）

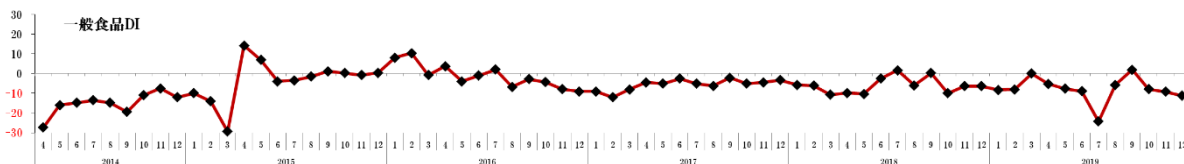
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
日配（前月）	7.7	26.8	33.3	25.0	7.1	-0.7
日配（当月）	6.9	27.8	41.0	20.8	3.5	-3.5



前年より高い気温により、鍋おでん商材関連の和日配や麺類などのホットメニューの動きが悪かった。前年健康報道で特需のあった納豆や梅干し、キムチに反動がみられた。洋日配はバター供給が安定し好調となったが、クリスマスケーキをはじめとするデザート類は不調となった店舗が多い。パン類や冷凍食品は動きがよかった。年末商戦は比較的好調だが、かまぼこを不調にあげるコメントが多かった。周辺競合との価格競争の厳しさを指摘するコメントもみられた。

6. 一般食品：-11.2（不調）

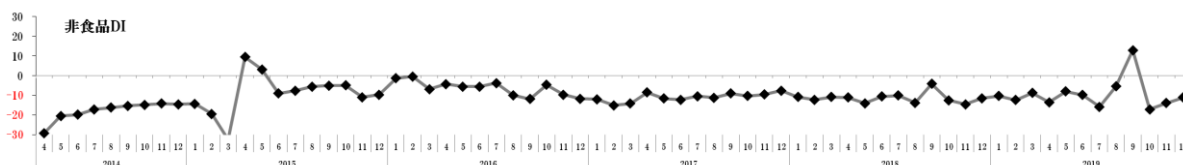
回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
一般食品（前月）	10.1	36.1	36.1	16.0	1.8	-9.2
一般食品（当月）	8.3	42.8	35.2	13.1	0.7	-11.2



高い気温により飲料は好調となったが、鍋用調味料や麺類やシチューなどホット商材は総じて不振となった。前年報道により特需のあったサバ缶や食油に反動がみられた。酒類はクリスマスが平日の影響や消費税率引き上げ時の駆け込み需要の反動が続き不振となった。餅やおせち関連商材は売り出しを早めるなどの取り組みを強化しているが伸び悩んだ。ドラッグストアやディスカウントストアとの価格競争の激化を指摘するコメントがみられた。

7. 非食品 DI：-11.1（不調）

回答構成比 (%)	かなり不調	やや不調	変わらない	やや好調	かなり好調	DI
非食品（前月）	18.0	36.5	31.7	10.8	3.0	-13.9
非食品（当月）	14.8	31.0	39.4	13.4	1.4	-11.1



紙製品やタバコの売上が好調となった店舗もみられるが、カイロなどの冬物商材やインフルエンザ対策商品などが不振となった。年末に向けホームセンターやドラッグストアなどの価格攻勢が厳しく、掃除や家庭日用品を中心に販売の低迷が続いている。

カテゴリー別 DI による好不調判断

かなり好調：～ 20 好調：20 ～ 10 やや好調：10 ～ 0
 やや不調：0 ～ -10 不調：-10 ～ -20 かなり不調：-20～

2020年1月調査（12月実績）キーワード TOP3

1. 気温が高く冬物商材の動き鈍い
2. 年末商戦は比較的好調
3. クリスマスが平日

（参考）2019年1月調査（12月実績）キーワード TOP3

1. 中旬までの高温
2. 青果相場安
3. クリスマス以降堅調

スーパーマーケット景気動向調査 集計数

12月実績速報版 169社
 11月実績確報版 191社

スーパーマーケット景気動向調査に関するお問い合わせ

スーパーマーケット統計事務局 tokei@super.or.jp